



伊吹山テレビ
12月6日号でも
ご紹介します!

移住者・農業者

磯寄 純平(41)

昭和58年8月生まれ。彦根市出身。京都の大学を卒業し、東京で就職。13年間の会社員生活を経て農業者への転身を決意し、35歳の時に米原市へ移住。1年間農業法人で勤務した後、36歳で独立。現在は、自身で育てた野菜を使った加工商品を直売所やネットで販売している。

「米原での農業」に人生をかける 移住農業者の挑戦

農業者への転身を決意し 米原へ移住

現在、80アール弱の畑で野菜をつくっています。「おいしくて、体にいいものをお届けする」を活動方針に、農薬や化学肥料を使用せず、有機肥料と土づくりにこだわって栽培しています。

就農当初は多品目な野菜を育てていましたが、現在はさつまいもとニンニクに絞り、農作物加工品をメインに直売所やネットで販売しています。

もともと米原に祖父母の家があり、小さい頃は畑の手伝いをしていて、その頃から土いじりや自然が好きでした。東京で働いていた頃、農業をやりたいと考え始めた時に、祖母の住んでいた空き家や納屋を活用できるんじゃないかと思い、米原への移住を決意しました。

日本の中心に位置する米原は ビジネスにも優位

米原は琵琶湖や山もあり自然豊かでとても住みやすい地域です。その一方で、ちょっと足を延ばせば京都・大阪・名古屋と都市部へアクセスでき、子どもと遊びに出かける際にたくさん選択肢があるのも魅力だなと思って

います。

また、現在ビジネスの主軸を置いているネット通販にしても、物流や人流の真ん中にある米原は、全国への発送を考えた時にとっても優位性があると実感しています。

農業を「商売」として 販路を広げたい

農業をやると決意した際に、「ビジネス」として、人生をかけて事業に取り組もうと決まっていた。農作物の生産に加えて、販売戦略まで視野に入れて、今後もしっかりと「商売」として事業を確立させていきたいと考えています。

今は個人事業主として活動していますが、2年後を目途に法人化し、現在製造している干し芋や黒ニンニクに加え新しい加工品を開発し、販路を拡大したいと計画しています。

挑戦したい気持ちがあるなら 一歩踏み出して

もし何か挑戦したいことがある人で、苦労や逆風にも折れない覚悟があるのなら、ぜひ一歩踏み出していたください。大変なこともあると思いますが、少しずつ新しい景色が見えてくるはずです。



磯寄さんが育てたさつまいもで作った干し芋



ニンニク畑での作業